

広島大学本部跡地における平和に関する「知の拠点」の整備に伴う基本・実施設計業務 〔地質調査業務委託特記仕様書〕

【業務仕様】

- 1 図面及び特記仕様書に記載されていない事項は、国土交通省大臣官房官庁営繕部監修、敷地調査共通仕様書（国営整第151号：令和4年3月14日）による。
- 2 特記仕様
 - (1) 項目

番号に×印のあるものは適用しない。
 - (2) 特記事項

ア ○印のついたものを適用する。

イ ○印のない場合は、※印のあるものを適用する。

ウ ○印と⊗印のある場合は、共に適用する。

エ 特記事項に記載の（ ）内表示番号は、敷地調査共通仕様書の当該項目又は当該表を示す。

オ 敷地調査共通仕様書中『監督職員』とあるのは『調査職員』と読み替える。

カ 敷地調査共通仕様書中『主任技術者』とあるのは『管理技術者』と読み替える。

項 目	特 記 事 項
一般共通事項	
1 管理技術者及び担当技術者	<p>※ 土質及び基礎管理技術者は、技術士登録の建設部門（土質及び基礎）若しくはRCCM（地質又は土質及び基礎）の資格を有する者又は地質調査技士の資格を有する者（（社）全国地質調査業協会連合会の行う地質調査技士資格検定試験に合格し、登録を受けている者（「土壌・地下水汚染部門」の登録者を除く。））（1.3.2）</p> <p>照査技術者は（要・不要）とする。</p> <p>資格要件は本業務における管理技術者と同等の能力を有する技術者とする。</p> <p>その資格を証明する資料を調査職員に提出し、承諾を受けた者とする。</p>
2 現場作業中の安全確保及び環境保全	<p>⊙ 仮囲いをそれぞれの箇所に設置する。（1.3.5）</p> <p>（ガードフェンスH=1.8m程度）</p> <p>・ バリケードロープ張り程度</p>
3 成果品その他	<p>報告書提出部数 1部（A4版製本、記録写真を含む）（1.5.1）</p> <p>土質標本 1組（容器は原則として、直径4.5cm程度、高さ9cm程度のプラスチック製とする）（4.15.3）</p> <p>電子納品 2部（CD-R）</p>

項 目	特 記 事 項
地質調査	
1 基準点	<p>基準点の設置方法 (4.1.3)</p> <p>※ 調査職員の指示する敷地内又は周辺部にある移動のおそれのない固定物に基準点を設ける。</p> <p>※ 基準点には標示を行う。標示方法は、調査職員の指示による。</p>
2 ボーリング	<p>掘削工法 (4.2.2)</p> <p>※ ロータリー式ボーリング</p> <p>※ ノンコアボーリング</p> <p>掘削孔の後処理 (4.2.2)</p> <p>※ 埋戻し（セメントミルク等）</p> <p>掘削位置 (4.2.3)</p> <p>※ 調査職員の指示による。（地質調査位置図の図示は参考とする。）</p> <p>深さ及び孔径は別表 1-01、1-02、1-03 による。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 図示による。 ・ 試掘（寸法 形状 ）
3 サンプルング及び土質調査	<p>採取試料の品質</p> <p>◎ 乱れの少ない試料 (4.3.2)</p> <p>（粘土、シルトなど） サンプラー</p> <p>※ 固定ピストン式シンウォールサンプラー</p> <p>（ ※エキステンションロッド式 ・ 水圧式 ）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ロータリー式二重管サンプラー ・ ロータリー式三重管サンプラー <p>（砂、砂質土など） サンプラー</p> <p>※ 固定ピストン式シンウォールサンプラー又はロータリー式三重管サンプラー</p> <p>(4.3.5)</p> <p>⊗ 乱れた試料 (4.3.2)</p> <p>※ 標準貫入試験によって得られる試料</p> <p>（試料の採取は層の異なるごと、且つ 2 m ごとに行う。）</p> <p>◎ 別表 1-03 による。</p> <p>(4.3.5)</p> <p>サンプルング位置及び深さ</p> <p>別表 1-03 による。</p> <p>土質試験を行う試験所</p> <p>※ 調査職員の承諾を受けた試験所</p>

項 目	特 記 事 項
4 サウンディング	<p>種別 (4.4.2)</p> <p>⊗ 標準貫入試験</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ スウェーデン式サウンディング試験 ・ オランダ式二重管コーン貫入試験 ・ 孔内水平載荷試験 <p>試験位置 (4.4.3)</p> <p>※ 別紙による。</p> <p>標準貫入試験 (4.4.4)</p> <p>測定間隔</p> <p>※ 地表面より 1 m の深さより 1 m 間隔</p> <p>○ 別表 1-02、1-03 による。</p> <p>孔内水平載荷試験 (4.7.4)</p> <p>掘削孔径</p> <p>※ 86mm 以上</p> <p>試験機の種別</p> <p>※ A 型 ・ B 型 ・ C 型</p>
5 室内土質試験	<p>試験種別等は別表 1-01、1-03 による。 (4.8.2)</p>
6 総合考察	<p>※ (4.14.2) による。</p> <p>⊗ 基礎の検討</p> <p>計画建物の基礎の種類及び経済性・施工性等の検討</p> <p>基礎についての耐力の検討</p> <p>○ 液状化の有無の検討</p>
7 報告書その他	<p>※ (4.15.2) による。</p>
8 その他	<p>土壌汚染拡散防止について</p> <p>(1) 土壌汚染拡散防止のため、参考イメージのように適切な手順をとり実施すること。</p> <p>なお、必要と認められる対策については、設計変更の対象とする。</p> <p>(2) 掘削時に発生した水（汚染水）については、1 地点毎に調査完了時に回収し、ドラム缶やノッチタンク等に入れ、施設管理者及び調査職員と協議の上、敷地内の所定の場所に保管すること</p> <p>なお、保管した汚染水の処分費用については、本業務に含まない。</p> <p>本業務に伴う既存樹木等の撤去・復旧について</p> <p>本業務を実施するにあたり必要となる既存樹木及び機械警備、フェンスの撤去・復旧について、施設管理者及び調査職員と協議の上、決定すること。</p> <p>なお、この撤去・復旧に係る費用については、本業務に含まない。</p>